

1. 3月全国行事
  - 1) 春の火災予防運動 3月1日～3月7日
  - 2) 建築物防災運動 3月1日～3月7日
  - 3) 車両火災予防運動 3月1日～3月7日
2. 安全・衛生・防災の心得 : 要注意 心が不安定なとき
3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)
4. 他社 事故・災害事例から : 安全装置「オフ」を忘れて起動してケガ
5. ヒヤリハット事例 : 回転バスケットの足部が床の段差に引っかかりハットした

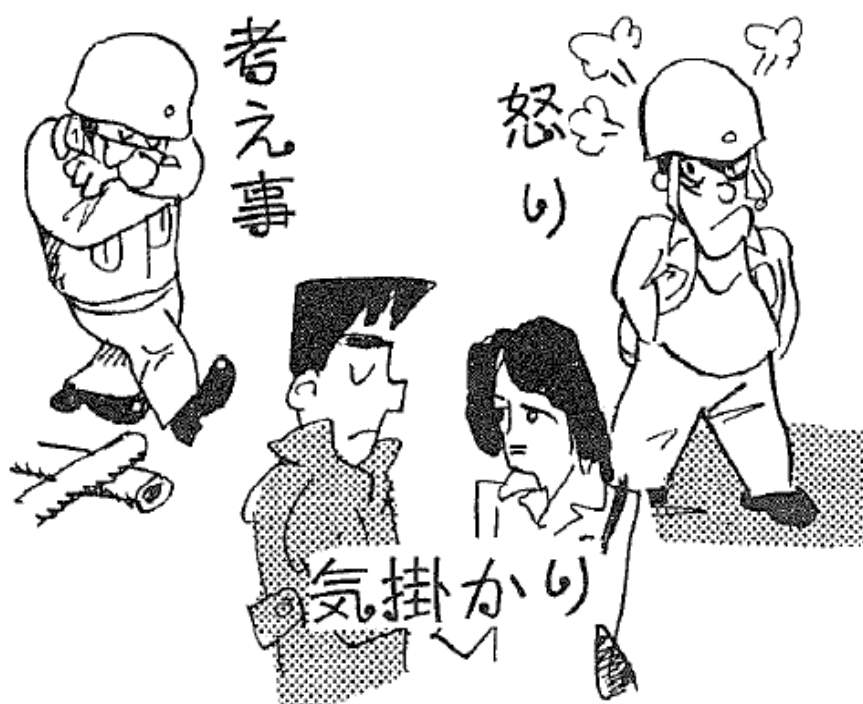
## 2. 安全・衛生・防災の心得 : 要注意 心が不安定なとき

～行動も注意力も不安定に～

・労働事故の多くは、職場の設備や環境などの「物の不安全な状態」と、ヒューマン・エラーなどの「人の不安全な行動」とが重なって発生します。

職場の安全対策は、まず物の不安全な状態を改善し取り除くことですが、一方で、人は次のような心理的・生理的な状態のときエラーを起こしやすいことを自覚して、本人はもとより、周りの人も気をつける必要があります。

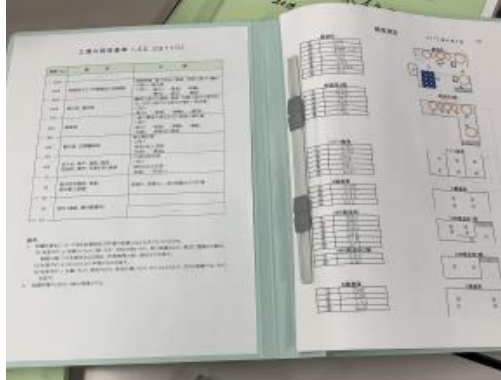
- ①何か強い欲望があるとき 「早くあそこへ行きたい」と思うと、途中の障害物が分からなくなる。
- ②感情が高ぶっているとき 人と激しく口論しているときなどは、行動の冷静さがなくなる。
- ③過去の経験から推測してしまうとき 今まで事故などが無かったからと安易に思うとき。
- ④病気、疲労、2日酔い、心配、焦燥などの心身が不安定なとき 体調が悪いときは、自分では気を付けていても、見落としや思い違いをして誤操作や誤った手順で作業を行う。
- ⑤不慣れ、未経験、知識不足などのとき 特に新入社員等は作業を覚えることを急ぐあまり、注意点を外してしまいがちになる。
- ⑥何か、強い関心を引くものが別にあるとき 子供のことなどの心配事があると、そちらの方が気にかけて目の前の注意が散漫になる。
- ⑦いい加減な判断をしたとき これくらいのことならと、状況を甘くみて独断作業を行う。



3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

●千葉工場

・照度測定記録簿にJISの照度基準表が  
ファイリングされ測定結果と整合出来るよう  
になっていた(左:基準値/右:測定値)



● 関西工場

・危険物製造所①内に新設した  
チョイ置き防止の整理台



4. 他社 事故・災害事例から :

金型調整中、機械を離れて、戻ってきて ~安全装置「オフ」を忘れて起動してケガ~

(1)災害のあらまし

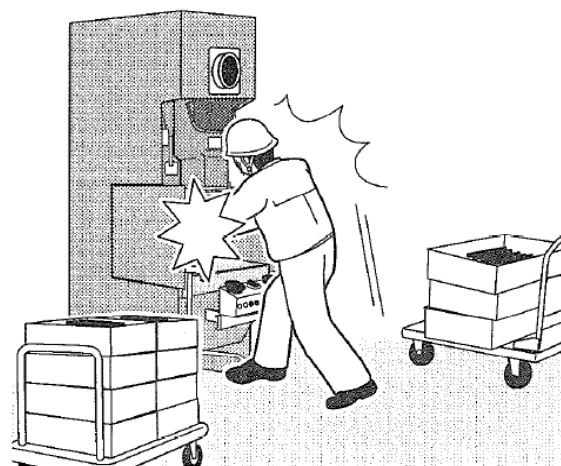
・光線式安全装置を備えたプレス機の金型調整を行っていたとき、事務所の上司に呼ばれたので  
機械を離れ、戻ってきて加工用のフートスイッチを入れたところ、スライドが動いて右手を強打し、  
打撲及び骨折の重傷を受けました。

(2)災害の主な原因

- ①光線式的安全装置を「OFF」にしていたのをすっかり忘れてスイッチを入れたこと。
- ②機械を再起動するとき、安全装置等の状態を確認しなかったこと。
- ③プレス機の取扱いに関する手順書に、今回の災害のような事象に対応する記載不備  
があり、教育等が行われてなかったこと。
- ④プレス機の構造が、誤操作が直ちに災害に直結する構造になっていたこと、など。

(3)同種災害の防止対策 例

- ①安全装置を機能させないとスイッチが入らないようにする等の改善を行う。
- ②安全装置の機能状況が直ちに分かるよう、表示等を設置する。
- ③一時的に持ち場を離れて再度作業を行うときは、「指差し呼称」などで安全確認を行って作業を  
開始する等の習慣化を図る。
- ④作業中の者を呼び出す際は、TPO(時・場所・場合)を考え、安全についての確認と指示を  
行う、など。



5. ヒヤリハット事例

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	工場内で作業中に
どこで	小型化成ラインで
何をしている時に	回転バスケットをハンドリフターにて脱脂行程に移動しようとした時
どうなった	回転バスケットの脚部が床の段差に引っかかりハットとした

以上